

1. インターバンク市場

先週のインターバンク市場は、当座預金残高が週を通して210兆円程度で推移したことで資金余剰感は強く、無担保コールO/Nは落ち着いた水準の出合いが続いた。中心の出合いは、27~30日は大手行が0.055~0.06%、地銀・信託業態は0.06~0.065%となっていた。1日は連休前となったため若干強含みとなり、地銀・信託業態の出合いは0.065~0.070%と小幅上昇した。無担保コールO/N加重平均レートは0.06%前半から後半での推移と、狭いレンジでの推移であった。ターム物は、大手証券から3~6Mの調達が見られたほか、大手行からは2W程度の調達が活発に見られた。固定金利方式の共通担保資金供給オペは30日に3M・8,000億円がオファーされ、応札額1,360億円(期落ち額770億円)で連続の札割れとなった。30日の日銀金融政策決定会合では現状維持が決定された。また、展望レポートが公表され、「物価安定の目標」である2%程度に達する時期が、従来の「15年度を中心とする期間」から「16年度前半ごろ」に後ずれた。

今週・来週の資金需給は揚げ要因が多い。7日の税・保険料揚げ、12日のTB3M発行超過と14日のTB6M発行超過・10Y発行などの要因を中心に大幅な不足日が予想されるが、各種の国債買入オペがそれらを相殺する見通し。無担保コールO/Nは横ばいでの推移が予想される。イベントとしては、7日の英国総選挙、8日の米雇用統計、8~11日のMPC、13日のユーロ圏GDP速報値などが挙げられる。

2. オープン市場

先週の短国市場は、週を通して品薄感が強く、動意の乏しい閑散なマーケットとなった。28日には3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.01~▲0.008%と強めの出合いが見られたものの、落札結果は平均落札利回▲0.0058%・按分落札利回▲0.0020%と、予想通り堅調な入札結果となった。その後のセカンダリー市場では▲0.003~▲0.001%での出合いが見られた。1日には短国買入オペが2兆2,500億円で実施され、平均利回較差▲0.004%、按分利回較差▲0.017%と、大きく流れる結果となった。その後のセカンダリー市場でも気配が強含み展開となった。

先週のCP市場は、引合いベースの発行は、週間償還総額1兆3,500億円程度に対し、週間発行総額1兆3,000億円程度と同額近辺にとどまった。業態別では電機・石油・通信・ノンバンク業態からのまとまった発行案件が見られた。大型連休を控え、週後半にかけて発行が減少する中、堅調な取引となった。4月末の発行残高は15兆8,000億円程度まで回復し、前年同月比(2014年4月末残14兆2,527億円)では大幅な増加となった。これで9ヶ月連続での前年同月比増となり、資金需要の強さが見られている。発行レートは、24日に実施されたCP等買入オペの結果が低水準で決着した事や、引き続き足元金利が落ち着いている事を受け、a-1格で0.080~0.090%、a-1格で0.085~0.095%と低位横ばい圏での動きが続いていた。

今週・来週の短国市場は、8日に3M物、12日に6M物、14日に3M物の入札が実施予定となっている。短国買入オペへの期待を背景に、引続き堅調な地合は変わらないと考えられる。CP市場は、今週は大型連休の谷間ということもあって営業日は少なく、発行量・発行レート共に落ち着いた取引が見込まれる。連休明けの11日以降も発行が急激に増えるような展開は考えづらい。8日にCP等買入オペが3,500億円と500億円減額して実施される予定となっており、低水準で推移している落札結果に変化が見られるか、注目したい。

3. 資金需給および国債等

5/7~5/8の銀行券は週間で7,900億円程度の還収超見通し。財政等要因は7日の税・保険料揚げを中心に、4兆8,500億円程度の揚げ超見通し。5/11~5/15の銀行券は週間で9,000億円程度の還収超見通し。財政等要因は12日のTB3M発行超過と14日のTB6M発行超過・10Y発行を中心に4兆3,000億円程度の揚げ超見通し。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<7日> TB3M;償還37,200億円・発行54,000億円<8日> 交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円/流動性供給;発行3,000億円<12日> TB3M発行;償還47,900億円・発行54,000億円/10Y物価連動;発行5,000億円<13日> 交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円<14日> TB6M;償還2兆200億円・発行3兆5,000億円/10Y;発行24,000億円<15日> 2Y;償還23,600億円・発行25,000億円/個人向け3Y・5Y・10Y;発行1,500億円/個人向け3Y;償還800億円

2015年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オベ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
5/4(月)			0				0	0
5/5(火)			0				0	0
5/6(水)			0				0	0
5/7(木)	3,900	△ 45,500	△ 41,600	全店共通(国) CP買入	△ 800 △ 400	1,400	200	△ 41,400
5/8(金)	4,000	△ 3,000	1,000	国債買入 短国買入		8,200 22,500	30,700	31,700
週間合計	7,900	△ 48,500	△ 40,600		△ 1,200	32,100	30,900	△ 9,700
5/11(月)	3,000	0	3,000	全店共通(国)	△ 2,200		△ 2,200	800
5/12(火)	3,000	△ 12,000	△ 9,000				0	△ 9,000
5/13(水)	2,000	△ 2,000	0				0	0
5/14(木)	1,000	△ 39,000	△ 38,000				0	△ 38,000
5/15(金)	0	2,000	2,000				0	2,000
週間合計	9,000	△ 51,000	△ 42,000		△ 2,200	0	△ 2,200	△ 44,200

(注) 上表の5/7は日銀予想、5/8以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
5/4(月)	みどりの日		3月の米製造業新規受注・出荷・在庫 英国祝日(May Day)
5/5(火)	こどもの日		3月の米貿易収支 4月のISM 非製造業景況指数
5/6(水)	振替休日		
5/7(木)	5月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 4月のマネタリーベース(日銀 8:50)		英国総選挙 3月の米消費者信用残高
5/8(金)	金融政策決定会合議事要旨(4月7,8日分8:50)	TB3M 54,000億円 5/12発行	10Y物価連動 5,000億円 5/12発行
5/11(月)		交付税借入 10,500億円 5/18借入	MPC(英中銀金融政策委員会,1日目) 3月の米卸売売上高 4月の米雇用統計
5/12(火)	4月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 3月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 35,000億円 5/14発行	10Y 24,000億円 5/14発行
5/13(水)	FIAジャパン金融市場会議にて佐藤審議委員講演 3月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00)	エネルギー 対策借入 4,500億円 5/20借入	4月の米財政収支
5/14(木)	4月のマネーストック(日銀 8:50) 3月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 54,000億円 5/18発行	30Y 8,000億円 5/18発行
5/15(金)	脱売国際経済懇話会にて黒田総裁講演 4月の企業物価指数(日銀 8:50) 4月の消費動向調査(内閣府 14:00)	国有林野 事業借入 700億円 5/25借入	4月の米小売売上高 3月の米企業在庫 1-3月期のユーロ圏GDP速報値 4月の米生産者物価指数
			4月の米鉱工業生産・設備稼働率 5月のミシガン大消費者信頼感指数速報

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。
掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認戴きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。
金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。